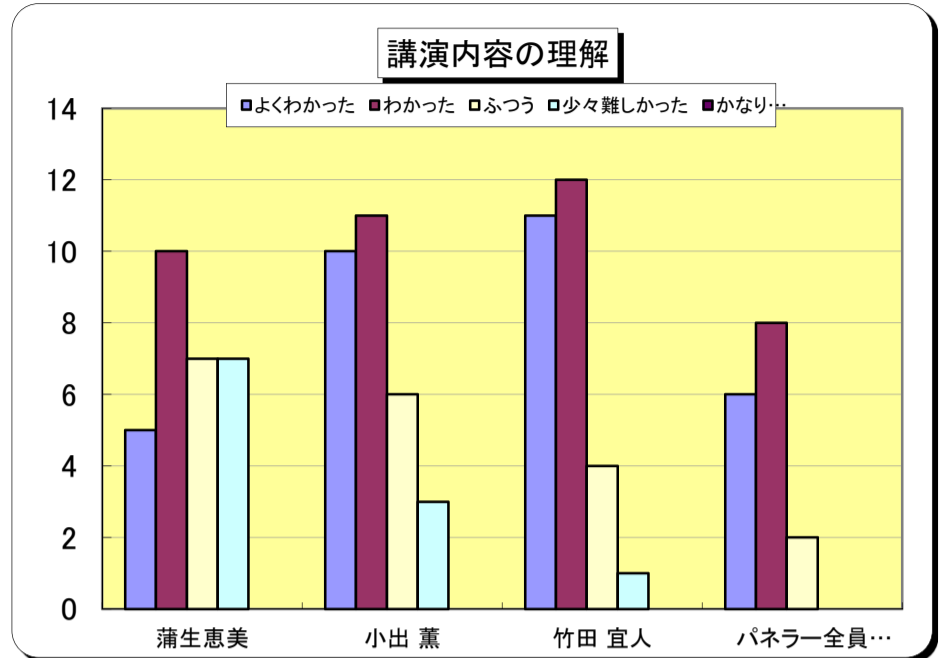
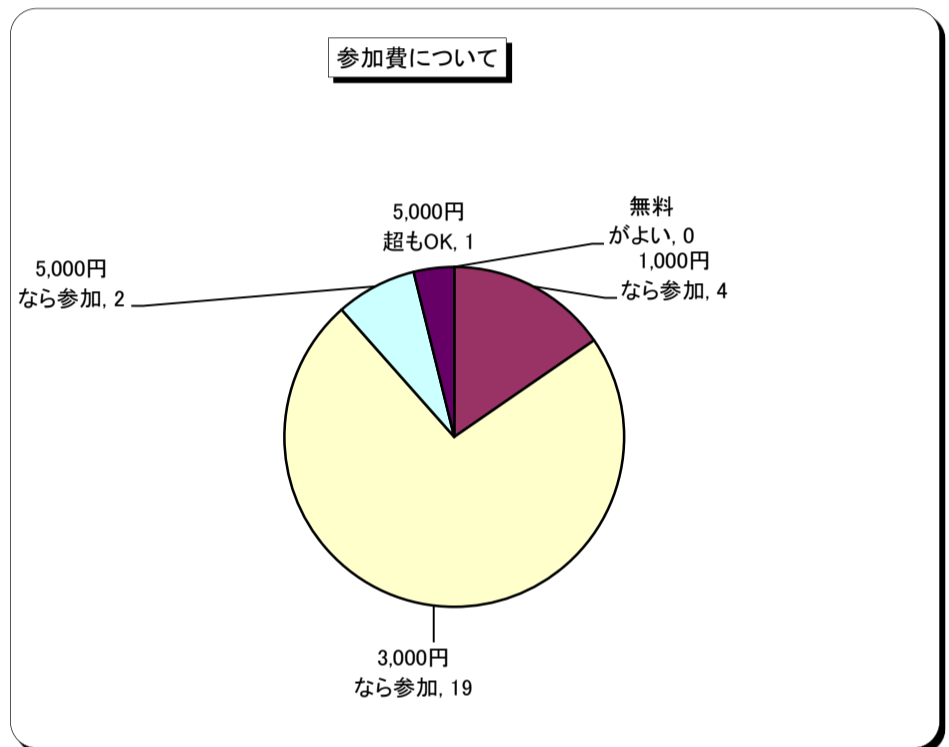


アンケート回収数31枚(参加者:53名、演者4名を除いた回収率:63%)

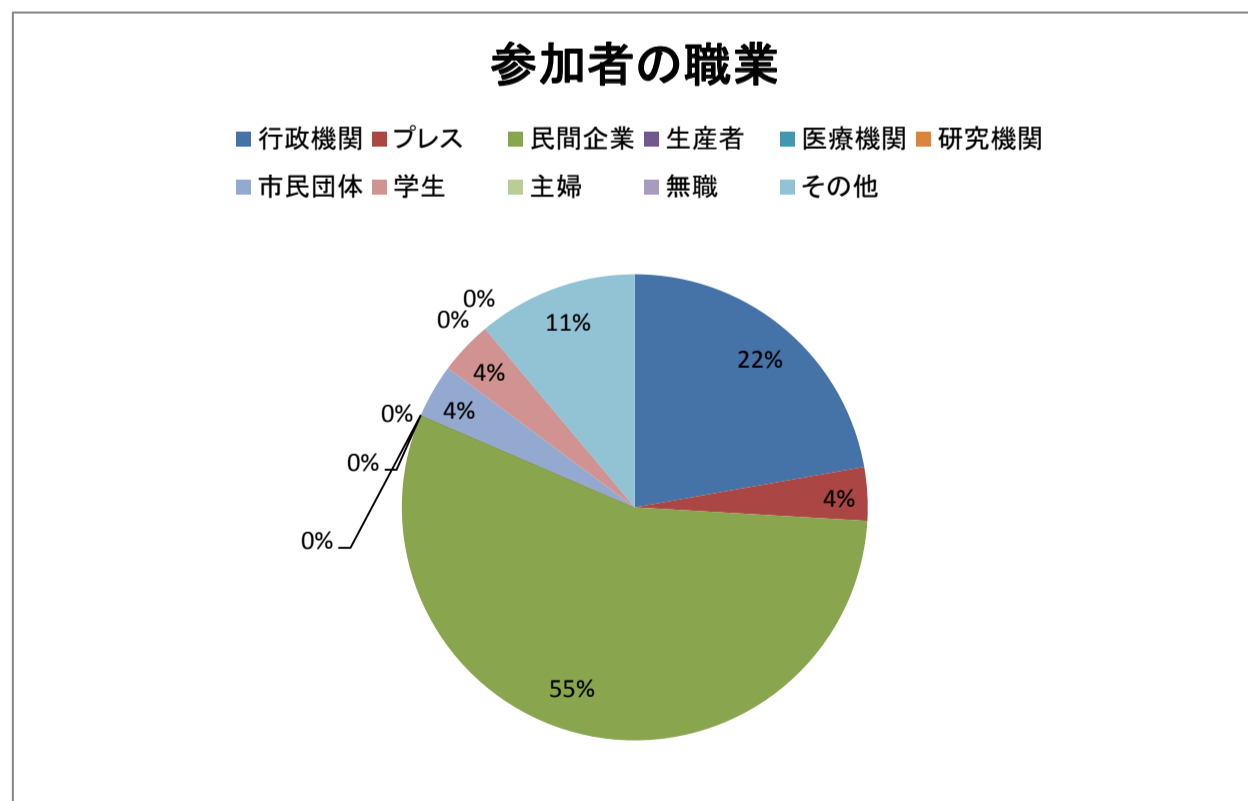
No.	テーマ	講師	よくわかった	わかった	ふつう	少々難しかった	かなり難解
1	機能性食品とどうつきあうか(消費者教育のあり方)	蒲生恵美	5	10	7	7	0
2	食品事業者から見る安全とリスクに関するコミュニケーションのこれから	小出 薫	10	11	6	3	0
3	リスコムの失敗を考える	竹田 宜人	11	12	4	1	0
4	パネル・ディスカッション: 『消費者の食の安心につながるリスコムを議論する』	パネラー全員 進行:山崎	6	8	2	0	0



	無料がよい	1,000円 なら参加	3,000円 なら参加	5,000円 なら参加	5,000円 超もOK
今回のフォーラムの参加費(NPOへの賛助)についてどう思われますか?	0	4	19	2	1
今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。	(別紙)				
今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?	(別紙)				
消費者の食の安心につながるリスコムのために、いま何が必要でしょうか。	(別紙)				
当NPOから季刊誌を発行しておりますが、無料購読を希望される方はあて先(郵便番号・住所・氏名・所属機関等)をご記入ください。	(別紙)				
当NPOから隔月でメルマガを発行しておりますが、無料購読を希望される方はメルアドをご記入ください。	(別紙)				



職業	
行政機関	6
プレス	1
民間企業	15
生産者	0
医療機関	0
研究機関	0
市民団体	1
学生	1
主婦	0
無職	0
その他	3



各演者のご講演やフォーラム全体に対する参加者のコメント集

1 機能性食品とどうつきあうか(消費者教育のあり方)		蒲生 恵美
1	とても興味深い内容でしたが、もっと詳しく聞きたかった。ポジティブな情報については、発信側のパワーもあり、又、発信側と受信側の都合が一致するため『わかりやすい、都合良く普及』するものの、リスクを評価するために必要な情報(ネガティブな情報など)は『判りにくく、伝わりにくい』ものですね。	
2	問題の複雑さが、よく理解できました。	
3	機能性の理解の程度に国民性が影響を与えるのか、異なることが興味深かった。	
4	「皆が少しがまんする」という言葉に感銘しました。(わかりやすかったです)	
5	市民の情報認識について学ばせて頂きました。	
6	パワーポイント(配布物)が小さすぎると感じました。小さいのであれば、印刷がもう少し鮮明だと嬉しいです。	
7	馴染みのない日本語の発見に驚きました。説明につかわれる日本語ではじめての出合いに不思議を感じた。	
10	リスコミは一般の人への認知の大切さ、関心度によるアプローチが必要だと感じました。韓国・アメリカ・日本における認知の違いが興味深かったです。	
11	健康サポート薬局が身近にあったら活用してみたいと思いました。機能性表示食品の効果って何だかわかりにくいので。	
12	スライドの文字が細かく(役所の原文)で読めないのは問題ですね。	
16	リスク認知の学問的な背景を理解できてよかった。	
22	医薬品と食品の整理が行政の中でもついていないことがわかり、また健康サポート薬局の話も聞くことができてよかったと思います。	
24	大変組み立てのよいお話でした。(ギャップは無くせない。ギャップを意識(認識)することのわりきりなど)	
26	機能性表示食品を事例にリスク認知について多面的に知ることができました。健康サポート薬局のような個別対応のとりくみに注目していきたいです。	
29	良いお話ありがとうございました。ラダソング法の進め方について具体的におしえていただければと思います。	
30	消費者にエビデンスに基づく判断を適正にさせていただくための、難しさと取り組みの大切さがよく分かった。	

2 食品事業者から見る安全とリスクに関するコミュニケーションのこれから		小出 薫
1	リスコミという難しいテーマでも、企業としての活動、ご苦労が伝わってまいりました。	
2	企業のリスクの多面性が、よく理解できました。	
3	品質に関する意思決定について、具体的に説明頂き理解できた。	
4	回収しない判断の重さを強く感じました。	
5	事業者として、事業継続を考えたリスク管理はためになりました。	
7	とても判りやすかった。牛乳関係の話は面白かった。	
9	大変レベルの高い話を、わかりやすく話していただいた。企業人ならではのお話だった。	
10	幼児から高齢者まで、毎日お手頃価格で安心して食せるのは、企業の日々の努力の積み重ねから成り立っている事を知りました。消費者も「お客様は神様」と甘えず、企業への認知、関心を持つことが大切ですね。	
11	具体的事例他、参考になりました。ありがとうございました。	
12	リスク管理の広報はきわめて重要で、食安委主導では不十分でしょうね。全体に声が小さく聞きとりにくかった。	
16	もう少し講演時間を長く、詳しく伺いたかった内容です。	
22	内容としては、よいこととお話されていたと思いますが、わかりづらかった。	
23	もう少し大きな声ではっきりお話いただくと、なおいいと思いました。	
24	後半の明治さんの取り組みに感心しました。(認識共有は小中事業者でも出来ることかと)	
26	実際の企業におけるRCの状況、そして熱意が伝わってきました。「謝罪という言葉が大キライ！」の話が印象的。はたらいっている側の誇り！	
29	後から「調べてみよう」と思うことが多く、さらに興味がわくお話だったと思います。	
30	牛乳がかかえる問題を分かりやすく、興味深く聞かせていただきました。放射能対応のリスコミをもう少し聞かせていただきたかったです。	

3 リスコミの失敗を考える		竹田 宜人
1	リスクコミュニケーションに参加する方々の「興味の質」によってアウトプットされるものの評価も変わるため本当に難しい。(頭が痛くなりました)リスコミは「常に取り組む姿勢」が大切であると思いました。竹田さんの「リスコミ失敗例」はすごくよく理解できた。	
2	大変分かりやすく、いろいろと整理できました。ありがとうございました。	
3	リスコミについての研究が進み、分野毎に性質が変わってきていること、最終的にはダイレクトコミュニケーションが有効。	
4	”評価”⇔”失敗”という考えがなかったので、とても参考になりました。	
5	リスコミについて、評価まで学ぶことができ、ためになりました。	
6	親しみやすい語り方で、分かりやすかったです。	
7	格別新しい発見(?)ありませんでした。残念。リスク情報の入り方で、異なった対応になる。	
10	一方向的な情報では相手は理解しない。理解しない方が、どうすれば理解するか。歩みより、努力の必要性を感じました。	
11	放射性物質のリスコミは失敗だったときいたことがあります。もともと理科教育で放射線について知識をもたせるべきだったと思います。	
15	地域の固有問題と食品安全問題とでは、リスコミの持ち方等が異なるのだろうと想像できました。	
20	業界・分野によってリスコミの目標、目的がちがうということを改めて確認した。	
22	化学・環境分野のリスコミについて話を聞くことができてよかったと思います。ローカルなテーマはローカルで解決できそうですが、それが他の地域に影響する、影響しあうことが出てくる(複雑になる)のではないのでしょうか。	
23	課題を記入するという講座スタイル、新鮮でした。ただ自分が考えたことをどう生かすか、何につなげればいいのかよくわかりませんでした。(すみません、私のレベルの問題です)	
24	今までイメージ的で漠然としていたリスコミの説明を頂けた。	
26	今自分が大学でとりくんでいるリスクコミュニケーションにすぐに活かせる内容が盛りだくさんでした！(リスクコミュニケーションの場の参加者募集についても、きけばよかった)リスコミって小規模だなと思っていたのですが、考えがひっくり返りました。	
31	いろいろなリスコミがあることが理解できた。より良い相互理解のためにリスコミのブラッシュアップも必要な反面、ダイアル対応等、個別対応の重要さも感じた。	

4	パネル・ディスカッション: 『消費者の食の安心につながるリスコミを議論する』	パネラー全員 進行:山崎
1	もう一度、竹田先生、蒲生先生、小出先生の発表内容を見返したいと思いました。	
4	様々な着眼点があり、楽しかったです。	
7	ここでの竹田氏の事例説明はよかった。消費者教育の必要性を今まで以上に感じました。	
11	質問をとりあげいただき、ありがとうございました。	
12	話がとびとびなので、まとめの方向が見出しにくかった。	
15	機能性表示食品等についての山崎先生のお考えが聞けてよかった。小出先生の基本的認識に少し驚いた、(企業人の誇りと消費者への謝罪との関係の部分)	
24	(いつもですが)フォローGoodです。	
25	講演で聞けなかった話が聞けて良かったです。	
29	色々と考えさせられる内容でした。	

5	今回のフォーラムについて、率直に思われたことを何でもお教えてください。
---	-------------------------------------

1	発表された内容が「レア」かつ「コア」で新鮮だった。(一般的な話とするには難しい内容だが、それが良かった)
2	市民と行政が共同でリスクコミュニケーション組織を作り、あらゆる分野を対象とし、勉強会を開催することができれば良いと思いました。(工場見学会等も)
3	貴重な機会をありがとうございました。
4	このようなフォーラムは初めてでしたが、明るい雰囲気を受講できました。
5	三演者の方の講演内容でマスへの対応と個別対応について語られていた点は参考となった。
6	トイレ休憩の回数を増やしてほしいです。(20分休憩じゃなくて良いので)スライドの写真をスマホで撮っておられる方がいましたが、あまり良いことではないと思いました。(カメラマンの方とは別の方です)
10	リスコミが一方向的な押しつけでなく、消費者や一般の人への歩みよりが感じられました。
11	リスコミについて新たな考え、知識が得られました。ありがとうございました。
12	3名のご講演がそれぞれ1時間というのは少々疲れました。
15	企業の方の話が少しズレている感じがした。むしろ具体的事例の紹介をしてもらった方が生きてくると感じた。
16	PPT資料が1ページ6枚だとやや読みにくいかと。またカラーが無理なら講演者に白黒印刷を前提に資料作成して頂くようにお願いします。(PDFがアップされるなら結構です)
18	今回のみの参加だったが、想定していた内容と違っていただけ、連続して出られている人にはわかるかもしれないが、所々内容的に難しい所があった。
20	リスコミについて考えるのは楽しい。今の自分の立場で考える「リスコミ」とは何か。毎度のフォーラムで自分に問いかける機会になっている。
21	専門家の方々のお話でしたので、勉強になりました。
22	リスコミについての理解が高まりました。
23	講師間でのQ&A、意見交換があれば、なお興味深いと思いました。
25	異なるカテゴリーの専門家の講演とパネルディスカッションが同日に開かれるのは、より深く知れて良いと思います。
26	異なる立場の先生方のお話をきくことができおもしろいです。先生によって聴衆の知識レベルの認識がちがう気がします。(専門用語を使う程度..)
27	最初から決めつけている人達に対しては科学的根拠をもって説明しても伝わりにくいものですね。
28	企業のリスコミについて、社内教育のための具体的な話をきけたのは大変参考になった。リスクについてOpenに話せる環境づくりから始めたいと思った。一方で規制側と国研をまきこんで、リスクコミュニケーションのあり方を話していきたいと思った。
29	「リスクヘッジのためのリスコミ」と考えられるのかな?と思いました。
30	やや専門的で形の話が多い様に感じました、もう少し具体的なリスコミ関連の内容があったらと思いました。
31	リスクコミュニケーションの難しさ。具体的にどうしたらコミュニケーションがとれるのか。心理的な要因傾向とか事例の説明があり、新たな視点が得られた。

6	今後、食の安全と安心の分野で、どのようなテーマのシンポジウムを希望されますか?
---	---

1	食の安全の可視化やコミュニティの作り方
2	食物アレルギーのリスクコミュニケーション
3	消費者が食の安全・安心の分野で経時的に興味があるのか。関心が移っているのか。
6	フードディヘンス・食の安全に関するSNSの影響(風評被害など)
7	主婦・育児ママの視点から理解しやすい形で勉強できる教育の場の提供ができる様な易しいシンポジウムをどこかで開催できることを望みます。
10	機能性表示食品、食品の表示や栄養価の今後
11	風評被害対策、放射性物質検査はどの程度まで省略できるか。
12	ご出身(背景)の異なる方を集めたのは良いですが、あえて異なるご意見の方に丁々発止していただくのも面白いのでは?
13	食品廃棄の削減
15	「食品のリスク一般」(食品の安全は量の問題...etc)
16	海外の食の安全・安心の最新の動向
21	リスコミの事例のプロセス
23	食品関連企業のリスコミに特化したシンポジウム
25	農産物生産者や流通のプロの安全への取り組みも知りたいです。

7	消費者の食の安心につながるリスコミのために、いま何が必要でしょうか。
1	『マスメディアに対する取り込み方』『いかに伝えるか?』という統一かつ持続的な取り組み(例:ピクトグラム化など)
2	リスク管理のプロセスを知らせる。行政の信頼度向上(マスコミ等で取り上げる)
3	エビデンスをタイムリーに伝えること。より直接的なコミュニケーションを図ること。
6	分かりやすい説明、情報発信
7	情報開示(思わくで企業、国側の都合で淡々と開示しているのではない)が評価を伴い必要かと思う。(今まで以上に)
8	マスコミの適正な報道
10	小学生からの正しい学び。添加物やGMは企業利益のためでなく、消費者の安全第一として使用されている事。
11	主要価値類似モデルにあわせたリスコミ
12	メルマガとHPの理事長所感ほかは一定の読者を持っていると思います。
16	多様な消費者のリスコミへの参加 消費者団体の代表が必ずしも代表していない。
20	・現場ではたらく専門職向けのリスクコミュニケーション教育の場 ・リスコミのステークホルダーの方々が集い、情報交換する場→そこで出たアイデアが形になること ・”中立的”な情報がうまく「バズる」しくみ。SNSのシェア・リツイートがうまく活用できないか。
21	消費者の基礎知識が、ひと昔前と変わってきているので、実情を踏まえて進めていくことがまずは必要かと思います、
23	何が必要なのでしょう？それを知りたくて参加しました。
25	今回参加しまして、食のリスコミ評価を行う団体の必要性を強く感じました。
29	リスコミを開催されて、多く開催されるようになることは良いことであるが、同じ方が出られても意味が無いのかなと思います。
31	まずはわかり易く中立的な情報・状況の発信か？まだまだコミュニケーションに参加してくるのは興味がある人々。小さい頃からの教育ができるといい。(リスクベネフィットの考え方から)イメージとしてフォロワーを増やす。